

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101518		
法人名	社会福祉法人 紀三福祉会		
事業所名	紀三井寺苑グループホーム 【ユニット名: I 号館】		
所在地	和歌山県和歌山市紀三井寺617-3		
自己評価作成日	平成30年1月12日	評価結果市町村受理日	平成30年 3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kan=true&JievsvoCd=3070101518-008&PrefCd=308&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成30年1月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は桜の名所でも有名な紀三井寺の近くに位置する2ユニットのグループホームです。春には花見客で賑わいます。利用者様もスタッフと一緒に花見に出かけたりします。夏には事業所全体で夏祭りを開催し、地域の方々との交流をはかっています。その他にも、毎月、季節感を感じる行事やレクリエーションを実施しており、楽しみを持って、活気のある生活を過ごしていただけるように努めています。グループホームでの生活は9人1ユニットとして共同生活を送っていただく中で、これまでの在宅での生活の延長と捉え、家事などのお手伝いや身の回りのことなど出来るところは自己にて行っていただけるように支援して今までと同じように暮らせるよにと考えています。また、生活での不便が出てきたところは職員が支えとなり、利用者様、家族様が安心でき、個々の目標・希望に応じた生活が送れるよう支援させていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな環境で、2ユニットがそれぞれ独立した建物になっている。家庭の雰囲気大切に、皆が笑顔で生活を楽しめるよう、スタッフは常に笑顔で挨拶することを心がけて利用者に寄り添っている。利用者が身の回りのことを自らの力で行い、達成感や満足感を得られるよう支援し、要介護度が上がっても生活の質を落とさず、その人らしさが保てるサービスの提供に努めている。同敷地内には特別養護老人ホームがあり、多くのサービスを併せ持つ法人で開催される様々なイベントにも参加することができ、傾聴、朗読など外部からのボランティアの訪問も受けて、利用者が楽しむことができる機会を多く持てるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月、ミーティングを行い、都度目標を決めている。理念に基づき入居者のケアについて話し合い入居者一人一人に目標(個別ケア)を立て実践に取り組んでいる。	理念を踏まえて毎月その時期に応じた具体的目標を掲げている。利用者本位に考え、振り返ってみて不十分なところは再考し、次回目標に活かすようにして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方に、事業所主催のふれあい教室、夏祭り等に参加して頂ける様にお知らせをしています。参加して頂いた地域の方々より良い交流を深めるよう努めている。	法人主催の餅つきや夏の時期に開催される喫茶店などで小学生やその保護者、地域の人々との交流が持たれている。また中学生による介護の体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様、地域の方々にデイサービス等の介護教室に参加頂けるように呼びかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、地域包括センターの方や家族様、民生委員と意見交換する事でサービスの向上に繋げている。	年2回は家族会の後で開催するなど、多くの家族も出席できるよう配慮している。市役所関係者、民生委員の出席はみられないが、地域包括支援センターの職員は毎回出席している。	地域住民や利用者も加わり、話し合いのテーマを工夫するなどして、より活発で有意義な会議となることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	報告や事務連絡以外に行政の繋がりは無いが、パンフレットを持ち込んだり等努力はしている。	行政との繋がりは事務的な事柄が多い中、運営推進会議のまとめやパンフレットを持参して協力関係の構築に努めている。地域包括支援センター主催の勉強会に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々個々に拘束にあたる行為等は無いが見直し認識を高めるように月に1回、スタッフ会議で見直している。	重度化による転倒リスクを考慮しながら声掛けを工夫して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者の行動を抑制することがないよう。薬の処方についても常に医師と相談している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が虐待防止に努め、また虐待に繋がるような行為は何か話し合い検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいないが、家族様には必要に応じて制度がある事を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には必ず説明を行い、契約時も再度説明をし、家族様の御理解を深める様に努め、要望も伺っている。また、事業所のケアに関する考えや取り組みについても話し、その際も意見や要望を伺っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、家族会等で意見や要望を引き出すように努め、いただいた意見を反映出来るよう努めている。	遠方の家族が多いので、家族会の後で運営推進会議を行い、家族からの意見を聞く機会としている。個別にも話しを聞く機会を設け、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員の意見を聞き、個別にも要望や意見を聞いている。	ミーティング時に意見を出し話し合っている。職員の提案はできるだけ実践につなげて、実施しながら、より良いものになるよう工夫して取り組んでいる。リフレッシュ休暇は職員それぞれの要望に沿って取得できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課で実績の評価を行っている。職員の士気が下がらず常、向上心を持ってもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	Drや看護婦を交え専門的な医療に関する知識を得るために勉強会を行っている。又、法人の勉強会やスタッフ会議での勉強会を行い、職員が参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流を深め、質の向上に取り組める様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に家族様の協力を得て、本人の生活状況を把握できるように年代別背景や好きな物・嫌いな物シートに記入して頂き、本人が入居後不安なく過ごせるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の抱えている不安なこと・要望や困っている事はないか聴き、より良い関係作りに努めている。その都度、何かあれば対応させて頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様の思いや考えを確認し、状況に応じた支援を行っている。場合によっては他のサービスの利用を含めた対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできる事はして頂き、利用者・職員が支え合いながら24時間共同生活を営んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時など本人の様子を伝え、本人に何か変化がある際は都度連絡を行っている。家族様の意向や協力を得て本人を支える支援に取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様以外にも知人の方がたまに面会に来て下さる。馴染みの人や場所との関係性が途切れないように、家族様にも協力して頂いている。	電話や、年賀状等で家族や友人、知人と繋がりがもてるよう支援している。行きつけの飲食店や、よく買い物していた店等にも機会を作って出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性が合い、無理のない関係性をもてる様に支援している。また、孤立される方がないように職員がパイプとなり上手く関わりあえるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も、面会に行き様子を伺うなど、アフターケアに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で本人に問いかけたり、上手く伝えられない方には、その時々的心情や言動から察し読み取り把握に努めている。その際の利用者の言動は生活シートに記入している。	利用者の言葉には常に注意を払い、言葉による意思疎通が困難な場合も行動や表情から思いをくみ取り、意向に沿えるよう努めている。元飲食業の利用者による包丁研ぎなど、本人本位の役割も考慮されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方については、少しでも多くの情報収集出来るように家族様には予めシートに記入して頂いたり聞き取りなども行っている。本人からも情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人に24Hシートを作成し、生活のリズムや状態の変化に気づけるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族様の意向を取り入れ、その人らしさを大切にするには何が必要か職員間で検討し、介護計画を作成している。	計画は半年ごとに見直している。スタッフ会議で利用者の課題を明らかにして処遇をその都度確認している。家族には2ヶ月に1回状況を知らせ、電話や来所時に話を聞いて計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間で情報を共有し認識を深めるために、利用者それぞれについて生活の様子や心身の状況、ケアの実践と結果などを記録し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療の連携体制を活かし、急変時や特変事でも訪問診療や訪問看護を利用しながら、できる限り本人や家族様の望む生活を継続していけるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察や消防、地域のボランティアなどと協力しながら、安全で豊かな暮らしが送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族様の希望によりかかりつけ病院を選んで頂いている。かかりつけ病院とは連絡を取り合い関係作りを行い、適切な医療を受けられるように支援している。	在宅時のかかりつけ医の診察には家族が付き添い、診察結果を伝えてもらうようにしている。協力医の往診は月2回あり、歯科医の往診を受けることもできる。健康状態に変化があればその都度家族に連絡している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同法人の看護師や訪問看護師に、いつでも何かあれば直ぐに相談しながら、日々の健康管理や状態の変化に応じた対応を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、出来るだけ安心して過ごせ、出来るだけ早期に退院できるように、病院関係者と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、本人・家族様・主治医・看護師・スタッフと話し合いを行っている。グループで出来る医療的処置の範囲を伝え相談し、重度化した場合等系列の特別養護老人ホームへの支援も行っている。	入居時に終末期の看取りはしない方針であることを伝えている。身体移動が困難な場合は訪問看護も利用出来るが、重度化すれば入院や系列の特別養護老人ホーム等への転居を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防職員などの協力を得て、他部署合同で定期的に応急手当・救急法の訓練を行っています。グループホーム内でも勉強会をして実践に備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により、避難訓練や救急法の講習を設け、職員には災害時の役割分担をきちんと決めている。	災害時のマニュアルは見やすく掲示されている。年1回、法人内で避難訓練やAED使用の救急法の講習と合同訓練が行われ、隣接の特別養護老人ホームが避難場所となっており、備蓄も一括して用意されている。	法人の合同避難訓練以外に、グループホーム独自の訓練も今後実施できることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個性を理解し、一人一人の人格を尊重したプライバシーを損ねない声かけや対応に努めている。	利用者を尊重して声掛けに注意を払っている。安全確保のために鍵がついていないトイレも用意しているが、職員の配慮で利用者が安心出来るように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や、その他の事に関しても普段のコミュニケーションをとる際に意向を聞いて自己決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人一人のペースを大切に、希望や要望に添えるように支援を行う		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回美容師の訪問があり、希望があれば利用者の好みの髪型にカットして頂いている。起床時や入浴後等、整髪や更衣を手伝い、その人らしくおしゃれ出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きながらメニューを考え、準備・食事・片付けなども一緒に行っている。	利用者の食器は使い慣れたものを持参することができる。偏食にも配慮して、別メニューを用意し、誕生会には本人の希望を取り入れて、時には外食や出前なども利用して食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスには注意をしている。利用者一人一人の食事量・水分量を把握しており、摂取量が少ない際は状況に応じて工夫をし摂取して頂けるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声かけ、ポリドント洗浄のケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握して、利用者の自立に向けた支援を行っている。	トイレで排泄が出来るよう早めの誘導を心がけて慎重に見守っている。また便秘への対処は薬に頼らず、ヨーグルトや野菜ジュース等、食生活の工夫で自然に促すようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記入し、便秘の状態を把握している。また、便秘予防のために水分強化や軽運動や散歩等を取り入れ支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の意向やタイミングに応じた支援を行っている。	自らの意思で入浴出来るよう、入浴が苦手な利用者にはタイミングに応じた声かけを行っている。午前中の時間帯に、それぞれの利用者が2～3日に1回のペースで入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転することがなく、夜間安心して眠れるように支援している。また、不眠傾向にある際は状況に応じて主治医と家族様に相談し、不眠時薬を服用して頂き見守りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルにお薬内容をつけ、薬の目的や副作用を提示して職員全員が把握するようにしている。服薬チェックリストやWチェックも行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で張り合いや楽しみをもって頂くために日常業務の粗洗い物や洗濯たたみ等手伝える方には協力して頂き、希望者には買い物・ドライブ・散歩・カラオケ等の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩、買い物等少しでも外出出来るように支援している。	歩行が困難な人が増えて外出の機会が少なくなっている。季節により散歩出来ない時もあるが、初詣や花見などには人員を確保して取り組んでおり、個別の外出も行い、また外出支援には家族の協力も得ている。	外出できないときも、気分転換にもなるので、今後、外気浴出来る機会が増える事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者より買い物等要望があれば一緒に行けるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも自由に電話をして頂けるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者に居心地良く過ごして頂く為に、毎日清掃を行い、空調や採光にも配慮している。また、季節感を味わって頂けるように季節に応じた飾りつけや季節の花等を生けたりもしている。	玄関周りは家族の協力者による花の鉢物で飾られ、夏にはプランターで野菜を作っている。日中の大部分を過ごす食堂兼居間には皆が作成したオブジェが飾られている。強い日差しをカーテンで調節するなどして、常に居心地の良い空間を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々のお気分の変化等に合わせ、思い思いに過ごせる空間作りを随時行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族様の協力を得て、居室に利用者の好きな物や馴染みの物を置き工夫し、最も安心して居心地の良い場所となれる様に努めている。	写真、テレビ、生花等が置かれている居室もあるが、持ち込み家具、装飾物は比較的少なく、画一的な印象の部屋が多い。また、歩行の導線を考え、家具の配置を工夫した居室もみられた。	家族の協力も得て、その人らしさが感じられ、より一層居心地の良い部屋となることが望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者、一人一人の出来る事・わかる事を理解し、それを活かし自立または維持出来るように支援している。		